

初めて
福山東インター降りてみた!!



輛には直進。
福山城には
2号線を右
じやあー

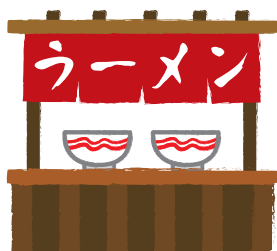


福山ラーメン



鶏ガラベースのしょうゆ味スープに
平麺を組合せたスタイル
尾道に近いながらもややあっさり
の味わいが光る。
屋台で評判を呼んだ一杯がルーツで
懐かしの味わいを継承

麺は、湯のびしにくい特製平打ち熟成生麺。スープは鶏ガラをメインに、小魚のだしがアクセントになったこってり醤油味。豚の背脂ミンチをスープに浮かせた備後独特のラーメン。醤油とだしにこだわって福山ならではのラーメンを作り上げました。



福山城



日本で一番駅から天守が近い城

徳川家康の従兄弟である初代藩主 水野勝成が幕府から命を受け、1619年に入封し、1622年に築城された巨城。新幹線ホームからは400年前から現存している国重要文化財 伏見櫓なども見ることができる。2022年に築城400年の節目を迎え、1月から「福山城400年博-FUKUYAMA CASTLE EXPO 2022-」が開幕し、福山城や城下町、ゆかりの地域でのイベントを開催する。現在は2022年8月28日の築城400年記念日に向け、福山城博物館展示リニューアル、ライトアップの整備などを行っている。特に焼失前の福山城は天守北側には防御のための「鉄板」が張られ、全国唯一の特徴を持っていた。この城郭史上の価値を高めるため、外観復元など「令和の大普請」を行っている。

鯛そうめん



昔から良質な鯛の漁場として
知られた福山市鞆の浦で
受け継がれている郷土料理。
あっさりとしたダシが鯛の白身に
絡み、素麺との相性もよい

尾道と似て非なる
福山ラーメンも美味



鯛身がたっぷりで
加速する美味しさ!

ラーメン評論家

「ぶんぶん」は創業以来、福山ラーメンの味を守っている一軒。パッと見は尾道ラーメンに似ているが、大きな違いは「尾道＝いりこ」「福山＝サバ、ウルメイワシ」。背脂が共通項だがこちらはタレで煮込み、味が染みこんで美味しい。背脂増しにすればよかったと思うほど。スープは醤油を効かせており、その旨味がグッときてわかりやすい。中細ストレートの麺はスープを吸って持ち上げもいい。もっと福山ラーメンが増えたらいいのに、と思うほど満足。

大崎 裕史氏

400年近い歴史ある伝統漁法の鯛網で知られる鞆の浦で食べる「干とせ」の「鯛そうめん」はお頭(かぶと)がどど〜んとインパクトあり。身もたっぷり付いており鯛出汁で食べるそうめんかと思っていたらサプライズ。鯛は酒蒸し風の調理で同じ器にそうめんが入っており鯛の味がじんわりそうめんに染みこんでくる。それを推奨といりこで取った和風つゆに浸けて食べるのだが、時間とともに鯛の味とつゆが混ざり、美味しさが加速していくのが楽しい。

瀬戸内では昔から良質の真鯛が多く生息し、鯛漁が盛んに行われてきました。福山・鞆の浦に浮かぶ仙酔島では、毎年初夏になると迫力満点のイベント「福山・鞆の浦観光鯛網」を開催。「鯛しぼり網漁法」は鞆の浦に約380年伝わる伝統漁法で、観光客は船から観覧できます。周辺には鯛めし、鯛茶漬けなど、鯛料理を扱うお店がたくさん揃っており、鞆の浦の名物となっています。

鞆の浦の絶景を眺めながら「鯛めし」が味わえる郷土料理店で出される名物「鯛そうめん」は絶品です。





JAPAN HERITAGE

日本遺産



瀬戸の夕風が包む国内随一の近世港町

夕暮れ時になると灯りのともる石造りの「常夜燈」は、港をめざす船と港の人々を160年間見守ってきた鞆の浦のシンボル。「雁木」と呼ばれる瀬戸内海の干満に合わせて見え隠れする石段が、常夜燈の袂から円形劇場のように港を包み、その先端には大波を阻む石積み防波堤「波止」が横たわる。瀬戸内の多島美に囲まれた鞆の浦は、これら江戸期の港湾施設がまとまって現存する国内唯一の港町。潮待ちの港として繁栄を極めた頃の豪商の屋敷や小さな町家がひしめく町並みと人々の暮らしの中に、近世港町の伝統文化が息づいている。



鞆の浦一円

見どころもグルメも満載の
かつての潮待ちの港。



お弓神事

「沼名前(ぬなくま)神社」の境内にある「八幡神社」の例祭。過ぎた一年の悪鬼を祓い一年の平穏無事を祈る矢は、「甲乙なし」という意味の文字が墨書された的に向かって放たれます。静寂の中に響く弦音に耳を澄ませば、身も心も清められていくようです。[2月第2日曜日]



海に突き出すように積み上げられた石垣の上に朱塗りの観音堂がそびえる姿は、まるで絵巻物を再現したかのよう。観音堂の中には「おっぴい絵馬」と呼ばれる子宝・安産祈願の絵馬がずらりと並んでいます。

～セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦～



福山市鞆町重要伝統的建造物群保存地区

江戸・明治期から昭和戦前までの伝統的な建造物が多数現存。
国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。



いろは丸展示館

江戸時代末期の大きな白壁の「浜蔵」。鞆
沖で沈んだ坂本龍馬率いる海援隊の蒸
気船「いろは丸」の足跡を証す資料館。



常夜燈で
記念撮影。



常夜燈

国内最大級の石造りの常夜燈。江戸時代から今も変わらず港を見守り続けている鞆の浦のシンボル。

・雁木(がんぎ)

全長約150m、最大24段もの石階段が円形劇場のように続く。石造りとしては国内最大級の規模。

- ・波止(はと)

鞆港を包み込むように造られた石積みの防波堤。石造りとしては国内最大級の規模で、今も江戸時代の波止が3基現存。

・船番所跡

港に出入りする船を見張ると同時に、安全も管理・監督。現在は石垣、石階段部分が残っている。



淀媛神社

鞆の港が一望できる境内からの眺めは最高で、瀬戸内海を背景に佇む神社にお参りしていると、鞆湾の守り神であるかのような存在感。鳥居のふもとの恋みくじも要チェック。

・鰯の浦鯛しばり網漁法

江戸時代から艀に伝わる伝統漁法。鯛の群れを6隻の船団で取り囲み一網打尽とする勇壮な漁法。国内で唯一継承されています。【4月〜5月】

・福山鞆の浦弁天島花火大会

江戸時代から弁天島・仙酔島などの名勝を舞台に
 続く花火まつり。天保2(1831)年の中村家日記に
 も、「弁才天御祭礼花火」等が記されています。

【5月下旬】



医王寺

鞆の浦の景観スポット。細く長い坂道や階段を登った先に建つ寺院。境内の奥にはさらに上への長い石段、その山道を登り切った人だけが見られる絶景が待っています。